

日本海における大型ブリの動き

福井県水産試験場

福井県の海面漁業生産の約2割を占めているブリは、その大半が定置網で漁獲されています。ブリは春から夏にかけて北上し、冬には南下する回遊魚として知られており、とくに寒ブリは高値で取引されるため重要視されていますが、その詳しい回遊経路については不明な点が多く残されていました。

そこで、平成13年度から富山、石川、福井の3県共同でブリの回遊状況について調査を行ってきました。この調査では、「アーカイバルタグ」(図1)という最新の小型記録式標識を用いた放流試験を行っています。水温・水深・光の強さを感知するセンサーのついたタグをブリのお腹の中へ埋め込むことにより、そのブリが泳いだ海のデータが記録されます。そのブリが再捕されデータを解析すると、いつ、どの海域を泳いでいたかが分かります。

平成13～16年度の4年間で、日本海沿岸各地の5ヵ所(石川県輪島・長崎県対馬・福井県美浜および越廼・新潟県粟島)で計8回の放流を行っており(図2)、合計で164尾を放流しました。これまでにその半数が再捕され、回収したタグに記録されていたデータを詳しく解析したところ、日本海における大型ブリ(4歳以上)の回遊パターンが明らかになってきました。

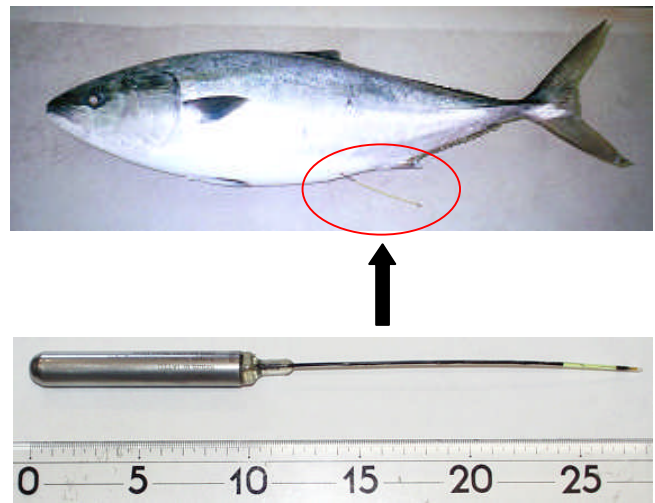


図1. アーカイバルタグ

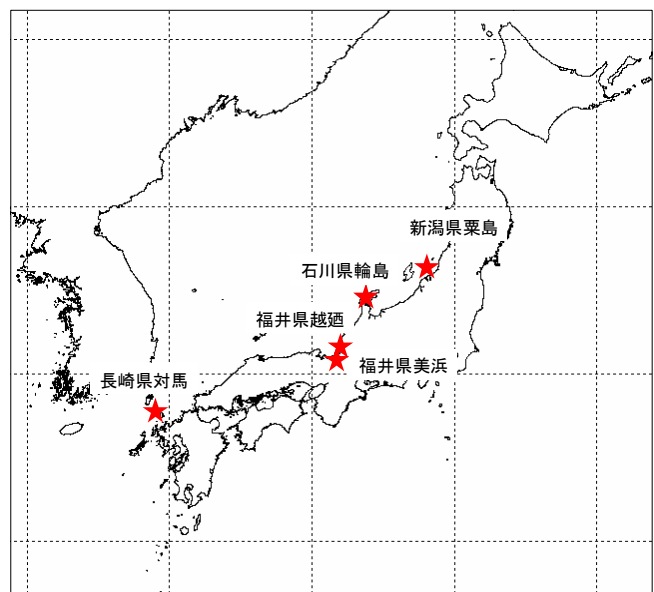


図2. 標識放流実施場所

- ①5月から6月にかけて東シナ海から日本海へ入り北上したブリは、7月には津軽海峡周辺に達し、一部は津軽海峡を通過して太平洋側へ達したり北海道西部海域まで北上したりするなど、夏から秋にかけては北海道周辺ですごす。その後、11月に入り水温が下がると南下を始め、12月から1月には九州北部海域へ達する(図3)。
- ②3月頃まで対馬周辺ですごしたブリは、4月から5月にかけて九州西方の東シナ海へと移動し、暖かい海域で産卵活動を行う。その後は、再び日本海へ戻り北上を開始する(図4)。→①へもどる

さらに、このような大回遊は3歳までは行わず、3歳の冬に初めて九州付近へ南下し、4歳の春に東シナ海へ移動して産卵活動を行ったのち、東シナ海～北海道周辺を往復するようになる、ということも明らかになってきました。また一部には、東シナ海～山陰、東シナ海～能登半島を往復する中規模な回遊や、同じ海域に長期間滞留する個体も存在しており、非常に複雑なブリの回遊生態が徐々に明らかになりつつあります。

今後は、年齢や海域の違いによる回遊パターンの変化と海洋環境との関係を明らかにしていくことにより、いつ・どこで・どのサイズのブリが獲れるか、という詳細な漁況予測を目指していきたいと考えています。

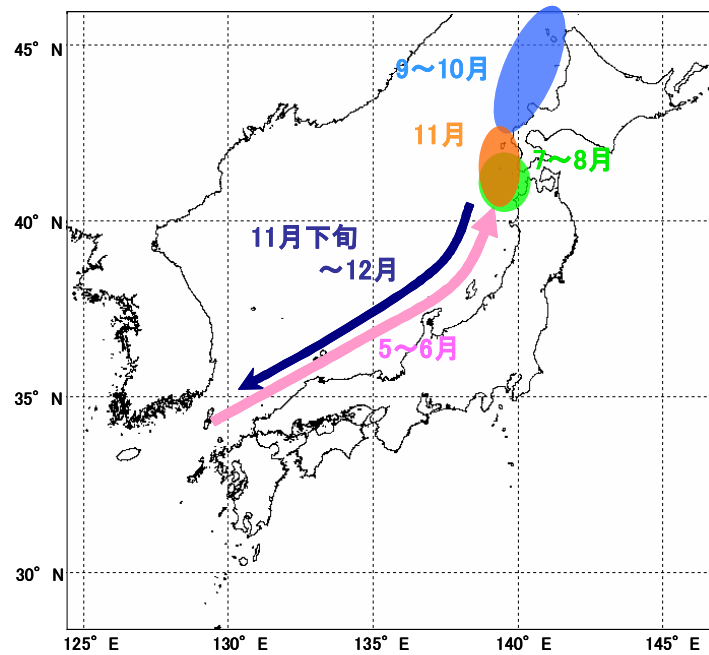


図 3. 春から冬にかけてのブリの回遊

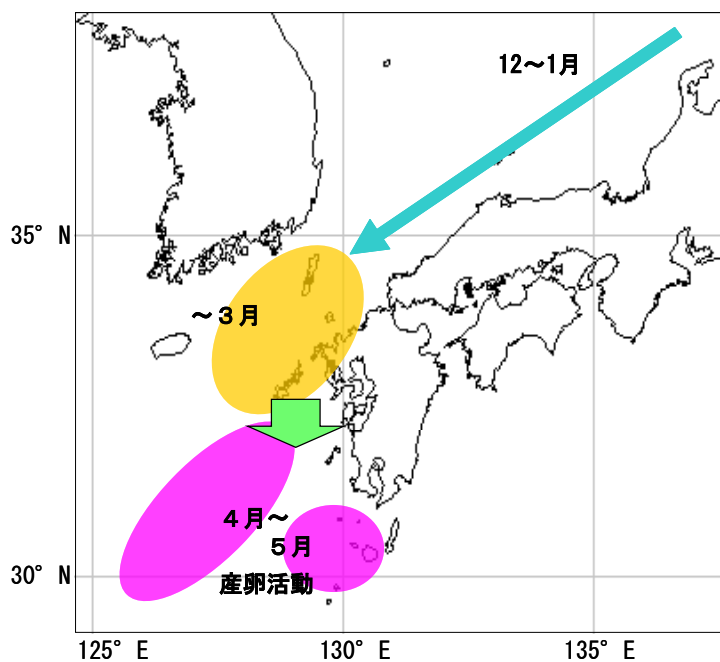


図 4. 冬から春にかけてのブリの回遊